

マテリアリティとKPI

6つのマテリアリティ	マテリアリティピック	目的	指標	2029年度までのKPI	2025年度進捗・結果	対象	関連するSDGs	
サイエンスを極め、顧客および社会への価値を創造	● クリーンテック ● イノベーション ● パートナーシップを通じた価値創造	AI半導体需要増に伴う供給制約解決のための高信頼・高スループット材料の提供	(KPI項目としてのみ記載)*1	－	－	電子材料事業 → P.22	    	
		AIの急拡大に伴う電力消費・CO2増加懸念に対する半導体プロセス材料によるエネルギー効率改善	サステナ戦略製品の売上成長率(対2024年度比)*1	2倍	1.4倍			
		環境負荷低減に貢献するソリューション提供や材料技術革新を通じた地球環境保全、生活の質向上	サステナ戦略製品の売上成長率(対2024年度比)*1	2.5倍	1.3倍	ディスプレイソリューション事業 → P.28		
				2.5倍	1.2倍	オプティカルソリューション事業 → P.29		
		車両のさしみ音軽減によるより快適なドライブの実現	全体販売量に占めるHUSHLLOY®の割合*2	10%以上	7.5%	合成樹脂事業 → P.30		
		顧客での工程省力化による地球環境保全への貢献	全体販売量に占めるVIVILLOY®の割合*2	3%以上	1.2%			
		社内外の多様な知見を取り込み、世界に先駆けてサイエンスを極める	研究委託・業務提携件数*3	50件/年	61件	研究開発		
				社外発表件数*3	10件/年			13件
				新規研究テーマ創出件数*3	継続的实施			5件
個が磨かれ共に高め合う企業文化の醸成	● 多様性とインクルージョン ● 従業員エンゲージメント ● 人権	多様な人財の活躍推進、従業員満足度の向上	従業員エンゲージメントサーベイ：エンゲージメントスコア*1	+10%pt (対2024年度比)	+3%pt (対2024年度比)	人的資本 → P.34	  	
			従業員エンゲージメントサーベイ：インクルージョンスコア*1	継続的实施	+3%pt (対2024年度比)			
			ストレスチェック高ストレス者のフォロー受診率*1	100%キープ	100%			
		積極的な能力開発による人的資本の充実	1人当たり総研修時間の拡大*3	継続的増加	10.5時間			
			研修プログラム・コンテンツの拡充*3	継続的増加	動画化コンテンツ数18件			
		人権意識の向上を通じた職場環境づくり	人権教育eラーニング受講率*3	80%以上	82%(2022年度)	人権 → P.36		
			人権に関する取り組みの進展*3 (教育・啓蒙、グリーバンス)	継続的实施	2026年度着手			

*1 JSRグループ全体(国内・海外)

*2 グループ企業(テクノUMG)

*3 JSR単体

マテリアリティとKPI

6つのマテリアリティ	マテリアリティピック	目的	指標	2029年度までのKPI	2025年度進捗・結果	対象	関連するSDGs
強固な経営基盤の確立	●コーポレートガバナンス ●情報サイバーセキュリティ ●リスクマネジメント ●デジタル化による業務効率化	高い企業倫理意識が根付いた組織文化の醸成	企業倫理教育の受講率*1	100%	91%	コンプライアンス →P.41	 
			行動規範遵守宣誓書の取得率*1	100%	87%		
			重大法令違反件数*1	ゼロ	ゼロ		
			内部通報の適切性*1	継続モニタリング	従業員100人当たり1.1件/年		
			ハラスメント外部教育受講率*2	100%	59%	合成樹脂事業 →P.30	
		重大な事故・災害の撲滅	重大リスクへの対策*1	対策完了および維持	① グローバルの製造拠点における重要リスクのレビュー更新、対策状況の確認 ② 新規追加拠点の重要リスク調査・特定を完了	環境 →P.48	
		サイバー攻撃によるシステム停止や機密情報漏えいリスクへの対応	社内、社外のサイバーセキュリティ評価指標(内部管理指標)*1	継続的实施	内部管理指標に基づく目標達成	情報セキュリティについて →P.45	
責任ある製品・サービスの提供	●製品の品質と安全性 ●地域社会とのつながり・公害対応 ●顧客リレーションマネジメント ●サステナブルサプライチェーン	製品の安全性確保	重大PL事故件数*1	ゼロ	ゼロ	製品品質	
		生産キャパシティ確保とリスク分散	海外サイトでのスケジュールに沿った立ち上げ*1	継続的实施	●韓国MOR工場2026年稼働開始予定 ●台湾先端電子材料製造拠点新設決定	電子材料事業 →P.22	 
		責任ある鉱物調達の徹底	適合鉱物の使用率*3	100%	JSR単体・DS事業:100%	サプライチェーンマネジメント →P.46	
		サプライチェーンの可視化とリスク低減	選定サプライヤーへのサプライチェーン調査実施率*3	100%	2026年度着手		
自然資本の持続可能な利用	●資源効率と循環型社会 ●生物多様性	廃棄物の循環促進	廃プラリサイクル率*4	① 100%(熱回収含む) ② 60%(熱回収含まず)	① 99% ② 55%	環境 →P.48	  
		自然環境、生物多様性に配慮した自社製品拡大	PFAS使用製品の売上に占める割合低減*1	10%未満	38%	ディスプレイソリューション事業 →P.28	
			デバイス構成材料でのPFASフリー化*1	100%	100%	電子材料事業 →P.22	
		循環型社会に貢献する自社製品提供	プラスチックリサイクル品の採用ユーザー数*2	継続的实施	1件	合成樹脂事業 →P.30	
気候変動への対応	●気候変動への対応	2050年ネットゼロ達成	GHG排出量(Scope1+Scope2)*1	2030年に2023年対比-42%	-9%	環境 →P.48	

*1 JSRグループ全体(国内・海外)

*2 グループ企業(テクノUMG)

*3 JSR単体

*4 JSRグループ(国内)